海外安全対策情報(2021年1月~3月:ナミビア)

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

- (1) 当国は政治的に落ち着いており、これまでテロや特定外国人を標的とした誘拐は確認されていないが、最新の犯罪統計(安全保障省統計:2020年11月~2021年1月)によれば、国内全体の刑法犯認知件数は非常に高い水準で推移している。そのうちの約4割は当館が位置する首都ウィントフックで発生しており、日中であっても一般犯罪が多発していることに特に注意が必要である(最も多い犯罪は、住居、事務所等への侵入、車上荒らし、強盗、暴行等)。当地警察も最近の都市部での強盗事件、住居侵入の増加が警戒レベルまで達していると警告を発しており、邦人を含め、外国人観光客が被害に遭いやすいため、徒歩での単独移動(特に夜間)を控えるよう推奨している。
- (2) 当国の2020年の失業率は推定41%と非常に高く、特に若い世代の失業率の増加に伴い、若年層による金銭目的の一般犯罪(窃盗の標的となりやすい物はノートパソコン、携帯電話等の電子機器)が増加傾向にある。国民の体感治安の悪化と防犯意識の向上により銃の免許取得者も増加しているが、それとともに銃器の盗難件数、銃器を使用した犯罪も増加しており、治安当局は、年々増加する銃器の所持、盗難や持ち主の管理不十分による紛失に起因する銃器関連の犯罪増加を懸念している。
- (3)警察の発表によれば、2020年11月20日から2021年1月15日の間に、政府による新型コロナ対策措置(集会人数制限、夜間外出時間制限、アルコール売買制限等)の違反により合計571人が逮捕されている。

2 外国人に対する犯罪の事例

- (1)3月15日、時間不明、ルードウィグスドルフ・ウィントフックのジョセフ・ムクワユ・イタナ通りで中国人住居への侵入盗難事件が発生した。犯人は未施錠扉から侵入し、テレビ関連機器5セット、洋服、キャビネット等を持ち去った。
- (2) 日時不明、ルードウィグスドルフ・ウィントフックのクワメ・ンクルマ通りで南アフリカ人住居への侵入盗難事件が発生した。犯人は未施錠扉から侵入し携帯電話と現金等、合計 14,690 ナミビアドル (邦貨約 95,550 円) 相当を奪い、電気フェンスを切って逃走した。

3 薬物・危険ドラッグについて

- (1) 当国は、違法薬物や危険ドラッグ等がブラジルから南アフリカを経てアンゴラへ密輸される際の経由地として利用されている。
- (2) 2021年2月5日付け当地ナミビアン紙は、過去3年間で当国では約7,151人が麻薬 関連の犯罪で逮捕されたと報じている。同期間内には891,020ナミビアドルに相当する89 kgの大麻、53,760ナミビアドルに相当する448kgのマンドラックス錠剤、78,400ナミビア ドル相当のクラックコカインが押収されている。

4 交通事故

警察は、2020年11月20日から2021日1月15日のホリデーシーズンに記録された交通事故件数はトップのコマス州102件に次いでオシャナ州が63件であり、交通事故関連の死亡者数はオチョジョンジュパ州が最も多く、これらの事故のほとんどは無謀運転、スピード違反、飲酒運転、大雨により道にできた穴が原因であったと述べている(2021年2月1日付け当地サン紙)。

- 5 テロ・爆弾事件発生状況 当該事件の発生は認知していない。
- 6 誘拐・脅迫事件発生状況 外国人が被害者となった身代金目的の誘拐事件は認知していない。

7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。